

うみのぞばな 「時よ 止まーれ♪」 BiBi 「時よ 止まーれ♪」 ブウウ
ソカチッ 「!？」

レロ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

とあるライブで「ミはμ, s i cのミ』を歌ったμ, s。しかし、海未と花陽、希、真姫、にこ、絵里の6人はとある部分で時が止まった！

—これは D I Oとμ, sの時を止める能力を巡る奇妙な物語である—

目次

序章

D I O と μ
s の異変

1

序章 D I O と μ, s の異変

ーμ, sのライブ中ー

printemps「LaLa μ, sical might

！ 踊れドレ 誰に お願いしようか？」

うみのぞばな「時よ止まれーれ」 BiBi「時よ 止まれーれ」

ブウウウウウウウン カチッ

うみのぞばな、BiBi「!!?」

海未「ー!? なんですかこれは…?」

希『みんなの動きが…』

花陽『止まつてる?!?』

真姫『い、イミワカンナイ…』

にこ『ちよ、どうゆうことよこれ…!?』

絵里『げ、幻覚…!?』

ピシャッ

ほのこと「幸せなんだ 笑顔で僕らはー」

花陽『え!? あ ちよっ…』

ーライブ終了ー

穂乃果「ライブ、楽しかったね！」

凜「みんな楽しそうでしたにや！」

ことり「…そういえば花陽ちゃん、『ミはμ, sicalのミ』のCパートの部分、歌えてなかったところあったけど、歌詞忘れちゃった？」

花陽「え…ああ… あの時実は、2. 3秒くらい時間が止まったよ
うな感覚があったんだ…」

海未「…!? 花陽もですか!？」

穂乃果「"も"ってことは…海未ちゃんもそんな感覚があったの
?」

海未「はい…私も、"時よ止まれ"の部分からなぜか時が止まった

ような感覚がしました…」

穂乃果「そうだったんだ…」

真姫「実は私もよ…」

真姫以外のみんな「!?」

真姫「あの時、何がどうなってるか全然わかんなかった…」

にこ「…にこも実はあったの… 真姫ちゃんと同じでわけがわからなかった…」

絵里「っ私もあったわ…私も、花陽たちと同じで時が止まったような感覚がしたの… 私以外にもあったのね…」

希「ウチもなんや… あれはスピリチュアルパワーとかそんなもんやない…もつと恐ろしいものやった…」

ことり「みんな…そんなことがあったんだ…」

穂乃果「…まさかこれって…」

凜「超常現象かによ!」

真姫「はあ? そんな非科学的なことあるわけないでしょ…」

希「もしかしたら時が止まった感覚が起きた人には呪いがかかってたりして…(ゲス顔)」

花陽「ええ!? こわいよう…(プルプル)」

真姫「そんなの嘘にきまつてるでしょ… 花陽も鵜呑みにしないで…」

にこ「ま、真姫の言う通りよ! そんなの嘘にきまつてるにこ! (震え声)」

希「…にこっち、めつちや足震えてるやん…」

にこ「は、はあ!? こ、これはむ、武者震いよ…」

凜「わけわかんないにや…」

絵里「とにかく、時が止まった感覚が起きた人たちの共通点を見つけてみましょう! きつと何かわかるかもしれないわ。」

穂乃果「私、賛成! もしかしたら違う何かかもしれないしね!」

ことり「そうだね! じゃあ時が止まった人たちの共通点を考えてみようか。」

穂乃果「花陽ちゃん、時が止まった感覚がしたのはいつぐらい?」

花陽「ああ、あれは…確か『ミは々 s i c のミ』のCパートの時よ止まれるところ辺りからだったかな…」

海未「私もそのようなところでした…？まさか…!!!」

絵里「海未、なにかわかったの!？」

海未「はい…私の推測ですが…これはまさか、時よ止まれる部分を歌った人だけが時が止まった感覚が起きたんじゃないですか?」

希「確かに、時よ止まれを歌ったのはウチと花陽ちゃんと海未ちゃん、そしてB i B i…」

真姫「実際に時が止まった感覚が起きたのもこの6人…」

にこ「つまりこの時が止まった感覚が起きるときのキーワードは…」

全員「『時よ止まれ』…!!!」

—一方、D I Oの館にて—

D I O「フフ…ジョジョの体もよく馴染んできた…この『世界』の能力も少しずつ使えるようになってきている…今では4秒は時を止められる… どれ 一度使ってみるか… 『世界』ッ! 時よ止まれええい!」

ブウウン カチッ

D I O「…素晴らしい…素晴らしいぞ…全てのものが止まって見える…ハハハハ…これであのジョジョの血統も潰せる… ん? なぜだッ…!」

体がッ…動かんッ… これはまさかほかの誰かが時を止めているのかッ…!?馬鹿な…このD I O以外に時が止められる者がいるのか…?」

ピシャッ

D I O「…なんだったんだ今のは…」

アイス「D I O様…どうかなされたのですか?」

D I O「いや、なんでもない…少し腑に落ちんことがあっただけだ…それよりもジョジョの消息を調べるんだ…」

アイス「御意」

D I O『…やはりもしこのD I Oの『世界』以外に時を止められる者がいるとしたら…なんと少しでも排除しなければならん…徹底的に調べて根絶やしにしてやる…』

—こうして D I Oとμ'sの奇妙な物語が始まったのである…

T o b e c o m t e n u e d